

# 住んでなくても豊田推し

愛知淑徳大のボランティア団体「そとそと」は豊田市の観光案内やジビエ（野生獣肉）の活用法など、地域の魅力の発信に取り組んでいる。現在、メンバーは女性20人で、そのうち豊田市民は1人だけ。ほとんどのメンバーが「この活動に関わるまで、豊田は車のイメージしかなかった。今はめちゃ好き」と口をそろえる。彼女たちが「豊田推し」にのめり込む理由とは――。

（浅井正智）

## 観光案内やジビエ

名古屋千種区の同大星が丘キャンパスで、学生たちがシカ皮を使い小物を作っていた。5日に豊田市下山区の観光施設「香恋の館」（羽布町）で開かれるイベント「しもやまるしえ」に出店する準備だ。

豊田との接点は2年前、学生のまちづくりの提案に対し、市が支援事業を行っているを知ったのが始まり。足助を中心とした観光パンフレットやインスタグラムでの情報発信を提案し採用された。

①しもやまるしえをPRする代表の近藤さんと副代表の鴻巣真里華さん ②しもやまるしえに向けてシカ皮の小物を製作する学生たち＝いずれも名古屋千種区の愛知淑徳大星が丘キャンパスで



10月22日にあったイベントでは、シカ皮を使ったがまぐち作りのワークショップを開いた＝豊田市内で



「豊田に興味があったというより、まちづくりに関わりたかった。市にそれを支援する仕組みもあった」と、代表で3年生の近藤南帆さん(21)は話す。

その後、豊田の山間地の人たちと話す中で、シカやイノシシに畑を荒らされていること、捕獲した野生動物の9割が活用されず、廃棄されていることを知って衝撃を受けた。

観光PR以外に何ができるかを考

えたとき、メンバーから「ジビエに取り組みたい」と声が上がった。2年生の長尾莉華さん(20)は「学生の私たちに現状を変えることは難しくても、ジビエの活用を訴えていくことはできる」。イベントでジビエの小物を販売したり、シカ皮を使ったがまぐち作りのワークショップを開いたりする。

ジビエ料理の開発も手がけ、しもやまるしえではソーセージ風にしたシカ肉を使ったジビエパスタ

を初めて販売する。2年生の酒井桃さん(19)は「最初はシカ肉の扱い方も分からなかったが、地元の人に教えてもらい、子どもから大人まで食べやすいパスタに仕上がった」と自信満々。

ジビエに関わるようになり、活動の軸足は観光PRから獣害という社会問題に移りつつある。「私たちのような若者は受け入れられないかなと思ったけど、地元の人たちは喜んで協力してくれる」（近藤さん）ことが、何よりもメンバーの意欲を高めている。

ちなみに「そとそと」は「外の世界を見よう」という意味が込められている。今月からは下山区で空き家修繕のワークショップにも参加するという。そとそとの活動は、過疎という山間地を抱えるもう一つの課題にも広がっていく。

## まちづくりへの思い 地域で後押し



ジビエPR活動に取り組む「そとそと」のメンバー。鹿革と草木染めを合わせた小物を考案している。

# ジビエの魅力発信

## 学生ボランティア「そとそと」

愛知淑徳大学のボランティアサークル「そとそと」が先週末22日、鞍ヶ池公園で開催された豊田市主催の「ジビエマルシェ」に出展し、ジビエの魅力を発信するワークショップや小物販売を行った。

「そとそと」は昨年度、市青少年センターの若者活動支援事業に参加し、山村で深刻な獣害問題の解決につなげる提案

としてジビエ弁当の開発や皮製品づくりに取り組んできた。さし



「若者によるまちづくり提案事業 WAKAATTI」に委託料上限50万円をフリードバックした企画が評価され採択された。山村の地域課題である獣害被害や森林整備の現状

をインスタ等で発信しながら、課題解決に向けた取組を行っている。製作班「ジビエ料理班」情報発信班」の3グループに分かれて進めるそうだ。

この日のジビエマルシェでは、製作班のアイデアで鹿革がま口ポーチづくりや、草木染めした布と鹿革を合わせた巾着・アクセサリー等の販売を行った。ポーチづくりに参加した女性は「鹿革は柔らかくて気持ちがいいですね。味わいのある作品ができました」と満足そうだった。

ジビエ料理班は、キッチンカー「森の Pasta」とジビエ料理のレシピを共同開発。11月5日に香恋の館で開催される「しもやまるしえ」で、トマトソースベースの Pasta「鹿肉サルシッチャのマニチーラ」を50食限定でお披露目する。鹿肉はソーセイジ風にし、食べやすいさっぱりとした味つけになったそうだ。

代表の近藤南帆さん（3年生）は今年が活動の最終年。後輩たちへの想いを「イベントやマルシェを通して広がったつながりを大切にしながら、自分たちの軸をしっかり持ってやりたいことに取り組んでほしいですね」と話してくれた。

そとそとは来年1月にジビエ料理教室も開催。3月には豊田の魅力発信する3冊目の観光パンフレット発行も予定している。活動の様子や情報、問合せはQRコードから。 【有我都】

2023年11月3日（金）矢作新報 5面より  
この記事は矢作新報社の承諾を得て転載しています。